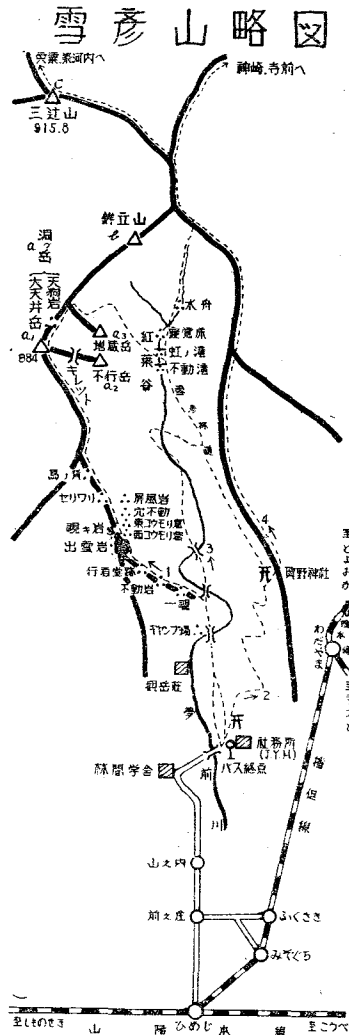


岩谷成彦



位置 飾磨郡夢前町山之内坂根(旧鹿谷村)
 姫路市の西部を流れる夢前川のみなもとといわれ、姫路より川に沿って28キロのぼる。飾磨郡の最北に位置し、北西は宍粟郡一宮町(旧染河内村)、北東は神崎郡大河内町(旧寺前村)に接し、三郡境界の地点となっている。

概要 雪彦山とは、もともと a洞ヶ岳、b鉾立山、c三辻山ら三山の総称であつたが、そのうち、麓より眼前に聳え立つて見える岩峰、洞ヶ岳のみを一般に雪彦山と呼んでいる。又登山コースの関係上登るのもこの洞ヶ岳に限られている。

洞ヶ岳は頂上に岩窟があるため名付けられているが、さらに3つの岩峰にわかれ、主峰を大天井ヶ岳 (a1 884メートル)、その東を不行ヶ岳 (a2)、その東少しはなれた岩峰を地藏ヶ岳 (a3) と呼んでいる。これらの岩壁は、昔は播磨の大峰山といわれ修験者の道場として、近代では岩登りのベテランの集る本格的な岩場として有名である。三辻山 (c 915メートル) は前述のように三郡の境界になっている山であり、鉾立山 (b 662メートル) の中腹には賀野神社がある。賀野大権現とも呼ばれ牛馬守護の神として広く敬まわれている。また、この山は雨乞の祈とう所ともなっていた。

以上のため、雪彦山は聖域として保護されてきたので、近年まで原始林におおわれ、寒暖系の植物がいりまじり、暖地北部特有の自然林が見られる貴重な存在であり、植物の宝庫として知られている。特にシダ類は百種余りもあり、県下では当山のみで発見されているものも少ない。

山は、石英粗面岩よりなっている。

採集コース

1. 洞ヶ岳登山コース
 前半は植林のスギも混っているが、モミ、ツガなどの針葉樹、ウラジロガシ、アラカシ、ヤブツバキ、ヤブニツケイなどの常緑広葉樹を主体とする中国山系南面の自然的林相が見られる。後半は岩の多い尾根道となり、ミズナラやツツジ類が多くなり、頂上ではイヌブナ、岩壁にはイワタケがある。
- バスの終点より山に沿って進むと靉岳荘、マスの養魚場がある。ここより林道になる。橋を渡った左側のスギ林は夏季キャンプ場となる処だ。林道を進み次の橋の手前を左に折れると登山道となる。
- ウラジロウツギ、ツルデング、ナンバンハコベ、ゲンノシヨウコ(白花)、アカネ、クズ、タケニグサ。
- 登りはじめたとたん大きな岩があり驚かされる。林の中をじくじくと登る。
- ツクバネ、カラスザンシヨウ、ホオノキ、アセビ、白花ウンゼンツツジ、ウスギヨウラク、ベニドウダン、ホツツジ、モチツツジ、ヒカゲツツジ、バイカツツジ、コオヤボオキ、ナガバノコオヤボオキ、ツルマサキ、シキミ、サカキ。
- 行者堂跡の小平地をへて尾根筋をつたつて西側をからんで行くと出雲岩のオーバーハンガの下に出る。

オトコブドウ、ツタウルシ、タムシバ。

急坂を登ると出雲岩の上、覗き岩のテラスと呼ばれる処に出る。セリワリ、馬の背とスリルにとんだ岩の多い尾根を登ると頂上だ。

イワタケ、フカゲナンキンナナカマド、トウシモツケ、コオニユリ、チゴユリ、ウチヨウラン、シハイスマレ、アケボノツツシ、イワナシ、セツコク、ミズナラ、イヌブナ。

頂上大天井ヶ岳には洞神社の祠があり、背後、岩の間には「仙人の窟」がある。眺望は素晴らしい。不行ヶ岳にはここより東へ下りて行くのだが、ザイルがなくては難しい。祠に向つて左側を西下へ急坂をおりると尾根に出る。天狗岩が左側にある。尾根筋からはなれて下の方、林の中の急な道をおりてゆくと、地藏ヶ岳との鞍部に出る。このあたりイワカガミが多くみられる。

ソゴ、クロソゴ、ヤマグルマ、ミヤマシキミ、梅花オウレン、コウヤコケシノブ、ヒメコマツ、ホンシヤクナゲ。

この下山道のある北の谷の中で雪彦テンナンシヨウが発見されたが、その後、木を伐つてしまつたので絶滅してしまつたであろう。

下山道をそれて少し行くと、地藏ヶ岳の上に出られる。岩ばかりで登るにも又その上に立つにもスリルがある。三面切り立つた深い絶壁となつていて、この景観も素晴らしい。

あともどりして、隠湿な道を下りてゆくと、夢前川本流の虹の滝の前に出る。このあたりは「紅葉谷」と呼ばれる。左岸に登ると3のコースの林道に出る。

チャルメルソウ、ミヤマタニタゲ、ミヤマカタバミ、ミヤマミズ、サワリソウ、ミズタバコ、タニギキョウ、ジンシソウ、イワオモダカ、ヒメサジラン、イヨクシヤク、オンダ。雪彦テンナンシヨウは、前述したように発見地で見付けることは難しいが、この谷で1958.5.25.に筆者らは3本発見した。探せばまだ見付けられよう。

所要時間(普通登山者を標準として)(以下同じ)鳥居—10分—→登山口—30分—→行者堂跡—20分—→出雲岩—30分—→大天井ヶ岳—30分—→地藏ヶ岳—30分—→紅葉谷 このコースは上り下りともけわしい処が多い。

2. 賀野神社参道

植林したスギも多いが、ツクバネガシ、アカガシ、ウラシロガシ、アラカシ、ホソバカシ、シイ、リンボクなどの常緑広葉樹、モミ、ツガ、カヤなどの針葉樹がいり混つている暖帯北部特有の林相がみられる。

バスの終点にある鳥居をくぐり右へ登つていくと、約30分程で賀野神社につくが、途中前述のほか次の植物がみられる。

ヤブムラサキ、アブラチヤン、ウワミズザクラ、ガクウツギ、イズセンリヨウ、コバンノキ、フユイチゴ、ミゾカクシ、イナモリソウ、シソバツツナミソウ、フシグロセンノウ、シライトソウ、オウレン、アギスマレ、アオイスミレ、ミヤママコナ、トウゴクシダ、マルバベニシダ、オオベニシダ、ヒメイタシダ。

賀野神社背後から山腹をぬつてゆくと、3のコースに合流する。(所要時間約30分)

カヤラン、ヒトツバ、オオハング、イワタバコ、ニツリハ、ヒレアザミ、タニウツギ。

3. 夢前川に沿つて(雪彦山林道コース)

この谷は、処々残つている大木より想像されるように、樹木が長年茂つていたためと、溪流の水量が豊富で湿度が高かつたため樹蔭を好む植物がよく繁殖していたが、近年樹木伐採のため日光の直射が多くなり土地の乾燥も甚だしくなり、シダ、草本類の植生がかなり変つてきており、不安定な状態を示している。

登山道を左に見て橋を渡り、川に沿い進むとバンガローがある。このあたりの岩には、アオネカヅラ、イワヒバ、カタヒバ、サジラン、ヒメサジラン、イヌチヤセンシダ、ヌリトラノヲなどがついている。その他谷筋には、キヨスミコケシノブ、コケシノブ、カラクサイヌワラビ、キヨスミヒメワラビ、ヒカゲワラビ、オオクシヤクシダ、クモノスシダ、タキシダ、イノデ、サイゴクイノデ、イノデモドキ、ツヤナシイノデ、ピロウドシダ、十文字シダ、コタニワタリなどシダ類が多く見られる。シンジュギク、カラムシ、アオカラムシ、ムカゴイラクサ、ツリフネソウ、ミカエリソウ、ミツバペンケイソウ、コミヤマスマレ、オチフジ、ダイモンシソウ、オオバアサガラ、イタヤカエデ、フサザワラ、マタタビ、ヤブデマリ、アオツヅラフジ。

トチノキの林を出た処にカツラノ大木があり、しばらく流と離れた登り道となる。急に曲る処で2の賀野神社からの道に出合う(約30分)

更に林道を登つてゆくと、紅葉谷に出、1のコースと合流する。(約20分)

ゴマギ、ジャケツイバラ、ミズキ、メグスリノキ、ウリノキ、キジヨラン、オオバチドメグサ、ノブキ、ヤマアイ、ケマルバスミレ、ナチシダ、ヒナスミレ、チクセツニンジン

少し上流に川の底が一枚岩になり寝醒の床と呼ばれる処がある。

エンレイソウ、ツクバネソウ、モミジガサ、ヤマアジサイ、ハクモウイノデ、ミヤコイヌワラビ、ホソバイヌワラビ、トガリバイヌワラビ、ヨコグラヒメワラビ。

更に進み右の谷へと進んでゆくと、夢前川の源といわれる水舟(甌穴)が見られる。(以下16ページへ続く)

(30ページより続く)

ミヤマクマワラビ、キクカラクサ、モミジバカラスウリ、オタカラコウ、キオン。

谷を登りきると、4のコースに合流する。

4. おくがけコース(宍粟、神崎郡へ)

賀野神社東の林の中の道を進むと、スギ林がつづく。山腹をぬつてゆくが、まもなく尾根道となる。この尾根は夢前川の水源をかこむ尾根の一部分で大きな木を伐つているので割合眺望はよい。途中で3の道に出会いさらに神崎郡、宍粟郡へと夫々出る道となるが、草におおわれてなれぬものにはわかりにくいから注意すべきコースである。

ツリシユスラン、ギンリヨウソウ、キクバヤマボクチ、ヤブレガサ、ツルリンドウ、ネバリタデ、ヒカゲノカヅラ、ハリギリ、コハクウンボク、メグスリノキ、ミヅナラ、クマヤナギ、

5. その他 雪彦→鹿ヶ坪(宍粟郡安富町関)コースもあるが、4以上にわかりにくいコースで案内者なしでは危険である。鹿ヶ坪は罅穴が多いので知られた処である。

参考文献

原 宮 男：雪彦山行・雪彦山植物目録 大阪植物同好会 16；1-10 (1928)

筆 者 不 明：兵庫県生物学会主催 雪彦山採集会植物分類地理ⅩⅣ；32 (1949)

岩 谷 成 彦：雪彦山植物採集記

兵庫生物，4；57-59 (1950)

室 井 絳：雪彦山南星の発見当時の思い出

” 4；60-61 (1950)

北 村 四 郎：兵庫県の植物

” 5；67-68 (1951)

田 代 善 太 郎：雪彦山植物概要

” Ⅱ；73 (1952)

稲 田 又 男：兵庫県羊歯おぼえ書

1 兵庫生物Ⅱ 29-30 (1952)

2 ” ” 98-100 (”)

3 ” ” 210-211 (1954)

4 ” Ⅲ 116-117 (1956)

稲 田 又 男：兵庫県羊歯植物誌

日本シダの会関西談話会 (1958)

西 本 俊 雄：雪彦山採集旅行記

兵庫県博物学会会誌3号

泉州山岳会：続近畿の山 山と溪谷社 (1959)

小 林 平 一：雪彦山の鳥類 兵庫生物Ⅱ (1952)

山 本 広 一：播磨雪彦山の蝶 ” ” (1954)

高 橋 真 太 郎：雪彦山植物採集メモ (1959)

上記の外、多くの方々の御指導により本稿を書くことが出来ました。感謝致します。

参考地図 地理調査所発行五万分之一「山崎」